

ビリー・ビーン「マネーボール理論」の検証  
Verification of the "money ball theory" by Billy Bean

1K09B068-5 久保田寛隆

指導教員 主査 武藤泰明先生 副査 木村和彦先生

【本論文の目的・研究方法】

本研究の目的はビリー・ビーンのマネーボール理論について検証することである。マネーボール理論とは、マイケル・ルイス(2006.3)『マネー・ボール』(ランダムハウス講談社)に掲載されているビリー・ビーン独自の球団経営理論である。研究手法としては、資料調査を中心に行った。具体的にはマネーボール理論によって重要視されている要素を様々な観点から調査し、考察を行った。例えば、歴代優勝チームの細かな成績を分析し、その中で優れている要素を分析することや各要素の優れた選手を分析し、その選手が年俸のうえでどのような評価をされているかなどを調査した。そこで、これらの調査を用いて 2002 年に年俸総額が全 30 球団中 28 位でありながら全球団最高の 103 勝を上げたオークランド・アスレックスの勝因はマネーボール理論によるものなのか、単なる偶然であったのかを検証する。また、マネーボール理論が注目を浴びて以来、マネーボール理論は球界に影響を与え、マネーボール理論は球界の常識になったのかについて検証する。加えて、マネーボール理論が提唱する要素の優れたチームは勝敗のうえで良い成績を残しているのかを検証する。

【本論文の展開】

第二章では、2002 年当時のメジャーリーグの経済格差について論じ、低予算ながら 2002 年のシーズンにおいて好成績を収めたオークランド・アスレックスについて簡潔に言及する。第三章では、ビリー・ビーンのマネーボール理論の概要について言及する。また、マネーボール理論を検証するための方法についても言及する。第四章では、歴代の優勝チームや現代のメジャーリーグのデータを分析し、マネーボール理論について検証を行う。具体的には、以下の 3 つの観点から検証を行う。① マネーボール理論が生み出した新たな要素は実際にチームの勝敗に影響を与えているのか。② マネーボール理論が選手の評価価値として生み出した新たな要素は本当に重要視すべき要素なのか。③ マネーボール理論は球団間の金銭格差による戦力格差を是正したと言えるのか。これらの検証は、マネーボール理論の中で重要視されていた出塁率(打者)、被本塁打、与四球、奪三振の要素を基に考える。第五章では、第二章から第四章を踏まえ、本研究についての考察を行う。

【結果】

調査結果として上記の 3 つの観点から検証したことを挙げる。第一に、①の観点については 1998 年~2009 年のアメリカンリーグ優勝チームのデータをもとに検証を行った。その結果、アメリカンリーグ優勝チームの多くはマネーボール理論で重要視されていた要素が優れた数値であったことが明らかになった。例えば、チーム出塁率とチーム打率の 14 球団中の順位は 12 年間で 10 年間においてチーム出塁率がチーム打率の順位を上回っていた。つまり、チームの得点力を評価する場合、チームの平均打率に注目するのがこれまでの常識だったが、平均出塁率の方がチームの得点力に密接に関係しているということになる。第二に、②の観点に関してはマネーボール理論で重要視されていた要素について、2011 年度の各要素トップ 10 の選手達の 2012 年度の年俸を比較し、年俸を選手の評価価値とすることで検証を行った。その結果、打者において出塁率は打率や打点以上に重要であり、投手において奪三振と与四球の数値は防御率や勝利数以上に選手の価値を正しく表していることが証明できた。第三に、③の観点に関しては、2011 年度の全球団の勝利数と年俸総額と勝利数を調査することで検証を行った。その結果、年俸総額が下位の 15 球団中 5 球団が各地区において 2 位以上の成績を残していた。対して年俸総額が上位 15 球団の中で各地区において 3 位以下であるチームも 15 球団中 8 球団見られた。また、各球団の一勝当たりのコスト(年俸総額÷勝利数)においては、一勝当たり約 49 万ドル~約 222 万の開きが存在した。これらの結果から、金銭格差による戦力格差は若干見られる部分もあるが、基本的には是正されたとと言える。

【考察】

検証結果から、好成績を残しているチーム(優勝チーム)の出塁率等の数値は高く、出塁率等で優れた成績を残している選手は球団から高い評価を受けていることが明らかになった。また、球団間の金銭格差が存在する中でも、資金力と戦力は必ずしも比例しないことがわかった。よって 2002 年のアスレックスの優勝は統計学で理論が裏付けされた必然の結果であることが証明された。またマネーボール理論が注目を浴びて以降、選手を評価する指標に変化が生まれ、マネーボール理論はメジャーリーグの常識になったと言える。